

令和元年7月5日

平成30年度 学校関係者評価報告書

学校法人後藤学園
専門学校武蔵野ファッションカレッジ
学校関係者評価委員会

学校法人後藤学園専門学校武蔵野ファッションカレッジ「学校関係者評価委員会」は、平成30年度自己点検・自己評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施し、以下の通り報告致します。

学校関係者評価委員

(「専門学校武蔵野ファッションカレッジ学校評価要綱」による選出)

- ・学校の専門分野における業界関係者（同第5条第2項第1号）
井関 理 氏 株式会社レナウン人事部部長
田中 大資 氏 株式会社クレヨン代表取締役
- ・卒業生（同第5条第2項第2号）
古本 舞 氏 萬リンク株式会社 代表
- ・高等学校校長、進路指導担当者等（同第5条第2項第3号）
山中 哲也 氏 東京学館浦安高等学校 教頭
- ・その他校長が推薦したもの（同第5条第2項第4号）
金久保 薫子 氏 株式会社B 代表取締役

基準 1 教育理念・目的・育成人材像等	
【現状と課題】	<p>【現状】</p> <p>本学の育成する人材像は「優れた人格と実践力をもった人材」と定めている。</p> <p>実践力とは「ファッションの専門性と社会人基礎力の融合した力」と定義している。</p> <p>また、それに連動する形で3つのポリシー、「ディプロマ・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」「アドミッション・ポリシー」を整備し、教職員が、どのような教育を行い、どのような人材を輩出するのかを共通理解して取り組むことに努めている。</p> <p>教育の受け手である学生に対しても3つのポリシーを提示し、自身が卒業までに身に付けるべき能力を明確化することに努めている。</p> <p>【課題】</p> <p>インターネット等のテクノロジーの進化により社会が変わり生活様式も変わってきている。これから働く学生達は以前の学生と比べ環境が変わってきている。今までどおりの実践教育の考え方や手法では社会に通用しなくなっている面がある。</p>
【改善のための方策】	<p>ファッション業界と整合性をもった人材育成としていくため、企業との連携を活用していく。</p>
【関係者評価】	<p>「3つのポリシー」がアパレルプロフェッショナル科、ファッションスタイリング科ファッションマスター科にて受入方針から到達目標及までが明確化されている。</p> <p>「3つのポリシー」をブラッシュUPさせて、世の中の流れ(変化)に対応し、更に「具体的・客観的」に進化する事を期待。</p>

基準 2 学校運営	
【現状と課題】	<p>【現状】</p> <p>本校の学生たちは距離感が近く相談しやすいことを教員に望んでおり、教員の学生との相談対応の能力を重要視している。学園で実施するメンタルヘルスケア研修では全教員が参加しカウンセリング能力向上に励んでいる。</p> <p>運営方針や事業計画、教職員組織等整備し適切に運営されており「職業実践専門課程」の認定も維持している。出願対象者からは教育の仕組みの整った学校として認められつつある。</p> <p>【課題】</p> <p>教員としての能力と学校運営や募集活動も行う幅広い業務運営能力が求められるのが教務部の業務である。近年は教務事務の業務が多くなっておりその業務にあたる教職員の負担が多くなっている。</p>
【改善のための方策】	<p>教務事務の出来る教員を育成し組織的にスムーズな対応ができるよう整備していく。</p>
【関係者評価】	<p>教務部業務負担増に対応すべき具体的施策の検討をするべき。</p>

基準3 教育活動	
【現状と課題】	<p>【現状】</p> <p>実践教育 ～ P D C Aサイクル（plan-do-check-act）の実践</p> <p>14 年前より実践教育を掲げ『期間限定ショップ【incubate】』『incubate collection ファッションショー』『卒業作品展』を複合的カリキュラムの成果発表としてP D C Aサイクルに法って行ってきた。その効果により年々作品のレベルは向上し、カジュアルファッションやリアルクローズの表現では一定の成果を上げるものとなっている。また、成果発表自体の運営を学生が主となり運営することで「社会人基礎力」向上の機会としても生かしている。</p> <p>【課題】</p> <p>社会が変わり価値観が変わり、今までどおりの教育の考え方や手法が通用しなくなっている。社会状況に合った人材育成となるよう、本学の特徴・強みを見極め、教育手法の更なる進化が必要である。</p>
【改善のための方策】	<p>ファッション業界と整合性をもったカリキュラムとしていくため、企業との連携を活用していく。</p>
【関係者評価】	<p>当社も「P D C A」を基に、計数管理及び業績評価を実施し、「実行力強化」を掲げている。御校でも「社会人基礎力向上」との融合との定義の基、適切に活動されている。今後は世の中の流れ(変化)に対応したカリキュラムへ進化する事を期待する。</p>

基準 4 学修成果	
【現状と課題】	<p>【現状】</p> <p><u>就職について</u></p> <p>販売職に関しては、順調に内定獲得をしていったが、一部の学生が苦戦していた。12月～3月にかけて行われる追加募集に向け、学生が諦めないようサポートを続け卒業までに1名を残すことにはなったが大半が内定獲得に漕ぎ着けた。</p> <p>スタイリストでの就職希望者は、離職につながる安易な選び方をさせず、受け入れ先となるスタイリストとのマッチングを図り、卒業間際になったが勤務先を決定できた。</p> <p>企画・生産職希望者は、全員が卒業前には就職を決めている。例年、都内勤務を希望する学生が多いが、地方で活動する製造業からの求人にも目を向け、立地ではなく業務内容で会社選びができたことが要因である。</p> <p>【課題】</p> <p>就職活動の遅れが出ないように学生には早期に活動させる指導、内定獲得が難しい学生に対して本人の適性に合わせた企業紹介に力を入れる必要がある。</p>
【改善のための方策】	<p>全体的に就職指導スケジュールを早め、2月末には受験企業を選定し、面接試験に望める到達レベルを目指す。定期的な就職個別相談を行い、学生の活動遅れを出さない指導に努める。</p>
【関係者評価】	<p>就職活動の早期化等の対応も含め学生と企業のマッチング等も検証し、手厚く対応されている。当社では、販売社員の新卒採用が原則対象となり、御校OBの当社社員等を有効活用して今後パイプ形成に繋げていきたい。</p>

基準 5 学生支援	
【現状と課題】	<p>【現状】</p> <p><u>退学について</u></p> <p>平成 29 年度に退学の多かったファッションスタイリング科 1 年生では施策を講じた成果として退学が抑えられた。一方のアパレルプロフェッショナル科 1 年の退学が多かったが、精神的疾病を理由にしたものが 5 名、経済的問題の学生も 3 名となっており、教員では手に負えないケースが多くなっている。</p> <p><u>資格取得について</u></p> <p>ファッション業界での就職を考えると資格が直接的に内定獲得に有利となることはないが、企業によっては努力の実績として資格取得を評価することもあり本校では取得を推奨している。</p> <p>【課題】</p> <p><u>退学について</u></p> <p>少人数制に魅力を感じ入学する学生が多く、少人数のクラス運営をしているが、友人関係で問題が起きた際、クラスという枠組みでは孤立しやすくなるデメリットが見えてきた。精神的疾病や経済的問題といった教員が対応出来る範疇を超えたケースも多くなっている。</p>
【改善のための方策】	<p>学生の異変をいち早く察知し問題を大きくしない予防策が効果的であり継続して行っていく。</p> <p>メンタルヘルス診断を活用した面談の実施と丁寧な対応に努める。問題発生時には担任だけの負担にせず組織的な対応に務める。教員が対応出来る範疇を超えたケースにはスクールカウンセラー等の専門家の協力を請う。</p>
【関係者評価】	<p>退学率の目標値（10%以下）は未達であったが、精神疾患・経済的問題等の退学事由なので、やむ無しかと。</p> <p>資格取得の奨励は人材付加価値に繋がる有効施策。</p> <p>一方でメンタルヘルス対応及び、企業側の奨学金対応施策の再検証をするべき。</p>

基準 6 教育環境	
【現状と課題】	<p>【現状】</p> <p>平成 30 年度に大きな予算をかけて行った事業はない。 近年の取り組みとして、全学生が利用する設備であるミシンは 3 年計画で新規機種にリニューアルをかけ平成 29 年度完了した。</p> <p>校舎の老朽化が課題となっているが、学園の修繕計画と耐震工事計画が進んでおり課題解決に動き出している。</p> <p>【課題】</p> <p>机、椅子といった備品類も老朽化している。</p>
【改善のための方策】	<p>必要備品に関しては予算組し、優先順位を考えリニューアルし教育環境の整備に努める。</p>
【関係者評価】	<p>老朽化等、適切に環境整備に検証及び対応されている。</p>

基準7 学生の募集と受け入れ	
【現状と課題】	<p>【現状】</p> <p>前年度に比べ微増となったが大変厳しい状況である。</p> <p>本校の強みは、競合校と比べ教育システムが整備されている点である。「職業実践専門課程認定校」であり、「シラバスの導入」、ディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシーの「3つのポリシー」が整備され、それに基づいた教育活動を学生に親身に対応するアットホームな校風で行なっている点である。体験入学での学校説明の中では「職業実践専門課程認定校」の紹介と認定要件である企業との連携授業とシラバス導入について説明を追加した。それによって参加者との面談では、教育の仕組みが整っている学校である后感想も出てきており、強みの認知が広がりつつあると感触をつかんでいる。</p> <p>【課題】</p> <p>教育システムが整備されている学校として同規模の競合校と差別化が計れてきている。教育機関としては強みであるが、現状では選ぶ側に魅力となっているかは難しい面がある。</p> <p>また、本校の存在自体を知らないという学校の知名度の低さは大きな課題である。</p>
【改善のための方策】	<p>広報部との連携を強化し、SNS 等の利用した募集活動の充実をはかる。</p>
【関係者評価】	<p>高等学校との繋がり及び SNS 等の活用の「具体策」が今後は不可欠と認識する。特に、学生のみならず、対象学生の父母等に対する、アクションも重要と考える。</p> <p>コーポレートメッセージのようなものを設定することを検討されてはどうか。</p> <p>卒業生の立場からも、アットホームであつたり、少数精鋭を目指しているあたりなど非常に感じる面はあるのですが、せっかくの強みを表現できていないところに課題点があると思います。強みの部分をもっと打ち出して、言葉に置き換えられるとイメージアップにつながると思います。</p>

基準 8 財務	
【現状と課題】	<p>【現状】</p> <p>18歳人口減少の影響を考慮すると大幅な収入増は難しい状況である。教育機関といえども収支均衡が望ましい。学園では予算制度の見直しとして予算委員会を立ち上げ、適正な予算分配を図っている。</p> <p>【課題】</p> <p>教育機関といえども収支均衡が望ましい。そのためには入学生確保が必要であり、予算削減の努力が必要である。</p>
【改善のための方策】	<p>収入増のための入学者を増やす努力と予算削減のため優先順位を精査した予算組みと予算執行を行う。</p>
【関係者評価】	<p>現状と課題を認識の上、適切に運営されている。</p>

基準 9 法令等の遵守	
【現状と課題】	<p>【現状】</p> <p>平成 28 年度に文科省委託事業「分野別第三者評価」を試行としてではあるが受ける機会を得て受審をした。産業界、同分野校から厳しい視点での評価であったが、「職業実践専門課程として適切な運営がなされている」と評価を受けている。現在はその維持に努めている。</p> <p>【課題】</p> <p>現在は法令の遵守に関しては特に課題はないが、その為の教務事務的業務が増えており負担が多くなっている。</p>
【改善のための方策】	<p>教務部内に教育と教務事務を行える人材の育成に取り組んでいきたい。</p>
【関係者評価】	<p>「分野別第三者評価」からも高評価を受けており、適切に対応されている。</p>

基準 10 社会貢献	
【現状と課題】	<p>【現状】</p> <p>豊島区主催のよさこい祭りやソメイヨシノ親善大使の審査員としての協力を継続して行っている。また、豊島区の関連の文化事業団体、財団法人としま未来文化財団とのパイプも出来ているので今後も学校の特性を生かした地域協力を継続して行っている。</p> <p>豊島区専修・各種学校協会（豊専各）や東京都専修・各種学校協会（東専各）に理事や評議員を派遣（前者は事務局も本学園で担当）。</p> <p>豊島区の文化事業『国際アート・カルチャー都市実現』のための特命大使として理事長、本校校長が就任。</p> <p>【課題】</p> <p>社会貢献は学園で掲げる「人格教育」にも重なる内容である。学校・教職員の取り組みだけでなく、ボランティア活動や地域や社会へ貢献する意識を学生に持たせる教育に取り組んでいく。</p>
【改善のための方策】	<p>「人格教育」を行う具体的施策をカリキュラム・学校行事で取り入れることを検討していきたい。</p>
【関係者評価】	<p>豊島区及び公益財団法人としま未来文化財団等、地域や社会への貢献する意識のもと「人格教育」に基づき適切に検討・対応されている。</p>

以 上